ご挨拶

【教授就任のご挨拶】

福岡歯科大学咬合修復学講座
口腔インプラント学分野
教授 城戸寛史（6期）

2012年1月1日で咬合
修復学講座口腔インプラント学分野の教授を拝命いたしました。同窓の先生方からは常
日頃から多くの応援やご支援を頂き、大変感謝しております。
また、2月に講座と同窓会主催による祝賀会を催
して頂いた際にも、宮口会長をはじめ、多くの同窓会の
先生方にご臨席頂き、大変光栄に思います。福岡歯科
大学出身の教授としては、歯科歯学分野の高橋裕教授、
成育小児歯科学分野の尾崎正雄教授、口腔医療セン
ターの古賀千尋教授に続いて4人目ということになります。

口腔インプラント学分野では開設以来、数多くのセミ
ナーや勉強会を開催して、同窓の先生方や歯科
医師の先生方と交流を広めてきました。今年度も、すで
にいくつかのプログラムが始まっております。なかでも、
インプラントに関する卒後研修の一環として、「ICOI
Fellowship養成コース」や「FPITインプラントセミナー」
は同窓会との共催で開催しており、同窓の先生がたには
参加しやすい環境が整っています。

ICOI Fellowship養成コースは、世界最大の規模のイ
ンプラント関連学会であるICOIの認定資格を取得するため
のコースで、このコース修了者から約25名が資格を取
得しています。最近、ICOI Fellowship取得のための受
験資格条件が改訂となり、ICOI Fellowship養成コースの
受講が必須と条件となりました。

FPITインプラントセミナーはインプラントの初心者と
中級者を対象とした二部構成のコースで、実習内容が大
変充実しています。これらの講習会では学内外で活躍す
る同窓生が講師陣の中心となっており、同窓生の貴重な
研修の機会となっています。

今年度は、福岡歯科大学は40周年を迎えます。この
節目の時期に当たり、教授職を拝命したことは、何の
継と考え、微力ながら同窓会と大学のパイプ役になれる
よう頑張る所存です。

【略歴】
福岡歯科大学歯学部卒。九州歯科大学・助手（旧歯科補
助学第1講座）、アメリカ合衆国カリフォルニア州ローマリン
ガ大学留学、福岡歯科大学口腔インプラント学分野講師、
准教授を経て平成24年1月同大学教授に昇任。博士（歯学）福岡県出身。

口腔医療センター教授就任のご挨拶

福岡歯科大学口腔医療センター
教授 古賀千尋（10期）

福岡歯科大学同窓会のみさ
ま、平成23年11月より福岡歯科
大学口腔医療センターに赴任いた
しました古賀千尋と申します。博多駅前にこのセンターが
開院してはや8ヶ月が過ぎようとしています。開院前
の準備段階から少しずつ関わることが多くなり最終的に
は理事長の命によりセンターの開設スタッフとして赴任す
ることとなりました。前にも書きましたが、私は、昭和63
年に本学を卒業（10期生）、久留米大学医学部口腔外
科講座に入局し、そのまま久留米大学に23年在籍し、
再び母校にお世話になることになりました。昨年3月に
持ってきたばかりで、やっと仕事にも慣れて新しい口腔
医療センターにてやっているかどうかとても不安でした
が、一緒に働く、松浦センター長、米田教授など何でも
相談できる先生やスタッフに恵まれ、また本田常務理事
のご尽力もあり大きなストレスもなく順調に今まで運営で
きていることに感謝しております。

開院当初は一日に20名程度であった来院数も、現在
では60〜70名程度に増加し、多い日は80名を超える
日もあるようになりました。口腔外科、保存科、インプ
ラント科の専門医が常勤し、補綴科が月金、小児歯科が毎週土曜日、矯正歯科が第三土曜日診療しています。
月に2-3日は、センターに歯科麻酔の先生に来ていただくセッションでのインプラント埋入や義歯摘出のような外来手術を行なっております。また、開院当初は、患者さんが少なく紹介は、ほとんどない状態でしたが、現在では新患の約半分が同窓や近隣の先生からの紹介患者さんとなりました。たまに新患が多いと、自分たちが慣れていないせいもあり予約の患者さんを長時間待たせたりしておりましたが、我々スタッフも少し手際が良くなり患者さんを待たせる頻度が減って来ております。
この8ヶ月、同窓の先生には、色々な面からご支援をいただき、特にまだ未知数である口腔医療センターに患者さんをご紹介頂いている事に大変感謝しております。今後は、同窓の先生の研修の場として様々なセミナーを企画し行っていると考えております。また同窓の先生にとって気軽に何でも相談できる便利な二次医療機関を目指して努力していますので、今後とも宜しくお願いいたします。
【略歴】
福岡歯科大学歯学部卒。久留米大学大学院医学研究科外科系専攻博士課程修了。久留米大学医学部助手、講師、助教授。米国インディアナ大学歯学部(IUPUI)留学。久留米大学医学部准教授を経て平成23年3月1日福岡歯科大学准教授就任。医学博士。福岡県出身。

同窓生は今…

「みんなの笑顔のために」
沖縄県開業
比嘉 奈津美（8期）
昨年のこの季節、フランスの歴史的な場所で、「ブルゴーニュワインの騎士」に叙任させて頂いた。厳粛な式典、世界各国の騎士団メンバーとの優雅な晩餐会は、私の大きな節目となり、私の人生はその方向に進むかと思っていた。しかし、それと全く違う環境に現在、身と精神を置いている。想像もしない展開をおのずから招いてしまった。
自由民主党沖縄県第三選挙区衆議院候補となった。私自身も候補者選考委員会の一員として多くの議員団や

経済界の人々と勝てる人材選びに参加していた。皆の熱い想いに心を打たれ私も真剣にその作業に取り組んでいたのである。しかし、数々の背景の中、私は白羽の矢が立ち数カ月に渡る説得を受け、私は、医療人として説明責任を果たす仕事をしてきた延長と考え、県民、国民のために役立つ機会を与えてもらえるかもしれないことを幸せと信じ、衆議院選挙に挑戦することを決意した。

政治に関することといえば、沖縄県歯科医師会副会長・沖縄県歯科医師連盟理事長として、知事選挙はじめ多くの選挙戦での女性部の一員としての参加に過ぎなかった。その後「沖縄県議会」でこれから数年後の沖縄の歩むべき道を知事らと議論する委員となり、沖縄の未来を考える立場になっていった。

沖縄には日米地位協定・基地問題・領土問題と語らなければならないことも多い。しかし、私は医療人として、また世界的な文化のライフを通して培った感性をもって、国際都市としての沖縄を築いていきたいと考えている。沖縄は優秀なDNAを持った人々で溢れていることを前に出した経済の活性化である。それがアジアのゲートウェイとして日本の経済を担うことと信じている。アジアでの歯科医療ボランティアを通してこの手で、この目でアジアを見学をした。この地の水でも飲むことが出来る日本は素晴らしい国家である。日本を信じている。
そしてまた私は母校を愛してやまない。背振のもとで生きた時間が誇りに思う。我が同窓の皆様には、全てをしっかりと見守っていただきたいと思う。
「飯田橋駅徒歩10分」

長谷英明（31期）

7月某日、演員の有楽町線に揺
られてながら、今も飯田橋駅へ
向かう。スーツと革靴を身につけ
て出勤するのも大分慣れた。デ
スクに腰かけ、茶を喫しつつデス
クワークをこなし、お昼時にサラリーマンやOLさんに混
じってオフィス街でランチを摂き込んでいると、会社勤め
にでもなったかのような錯覚を覚える。

筆者は2011年10月に、本学修学修業学講座有床義歯
学分野より、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講
座に研究留学するため上京した。日本歯科大学の歯科
補綴学第2講座は、顎機能、応力解析、材料実験の3つ
のテーマを柱に、臨床に直結する研究を様々な角度から
包括的に行っているのが特徴である。今回の東京留学の
目的は、その柱の1つである応力解析を学ぶとともに、
100年以上の歴史を持つ日本歯科大学のスタイルと、研
究に対する姿勢や考え方を吸収することである。当然、
上京という言葉に潜在的な憧れを抱いていたことは言う
までもない。

日本歯科大学のもう一つの特徴として、多数の海外大
学との連携がある。ロンドン大学、トゥルク大学、ブリ
ティッシュコロンビア大学等、数々の海外大学と提携を
結び、積極的に交流が行われている。当講座でも、外
国人留学生の大学院生もいれば、米国人の補綴専門医
が客員教授として在室していたりする。そのおかげで、
筆者もシカゴミッドウィンターと日中歯科医学大会にて発
表する機会をいただいた。初めてのアメリカで現地集合
且つ現地解散であったのにはさすがに肝を冷やしたが、
最高の経験をさせていただいた。残された時間は限られ
ているが、悔いが残らぬよう研究し、福岡大と日歯大を
結ぶ導線の1つになれるよう精進したい。

筆を尽くすためにあたり、本留学に際してご援助をいただ
いた福岡歯科大学ならびに
同窓会学術振興事業に心
から感謝致します。あわせ
て、留学の実現に向けて
ご支援、ご配慮をいただき
た高橋裕教授ならびに
営合修学講座の関係者
各位に謹意を表します。

夜のスカイツリーを真下から望む

平成24年度福岡歯科大学
同窓生対象オープンキャンパス

「同窓生対象オープンキャンパスに
親子参加して思ったこと
～同窓生として、感じた事～」

熊本県荒尾市開業
深浦武志（12期）

同窓生の皆様、こんにちは。5
月27日（日）初めて同窓生対象の
オープンキャンパスに娘と一緒に
参加させていただきました。場所
は本館901号講義室を中心に模擬実習、施設見学、在
校生との歓談、ランチ等ありました。まず一番感じたこ
とは施設、設備、実習機材が最新のものに替わっていた
ことです。在校生がこのような充実したなかで実習でき
ることはとても幸せだと感じました。病院の初診から診
療までのシステムもかなり効率よく、患者さんにとっても分かりやすく変化していました。また、ランチタイムの時は、在経生と実際に話ができます。講師から聞く、実際にの学生生活、学内の様子、指導窓の役割など詳しく説明はして頂き変わりました。自分自身も同窓生やお世話になった先生に再会し、娘からは「お父さんの同窓会みたい」と笑いながら言われました。実は、娘は歯科の道に進むことにまだ迷っています。不安がる娘は進路相談にいらした谷口先生から声をかけていただき、「一番、どの教科を勉強したらいいか。サークル、部活してもやっているか。」など、質問する姿勢にビックリしました。そんな質問にも優しく、丁寧に説明して頂き、娘も安心した様子でした。最後にオープンキャンパスを親子で参加して思ったこと、それは「秤」でした。やはり、同窓会はいいものですね。いろんな相談や情報が的確に得ることができたと感じました。一年後、福岡歯科大学に志願し入学し、私の後輩になってくれることをひそかに期待しています。

これからもますますの福岡歯科大学のご発展、ご躍進を祈念いたします。